

# Funehiki High School News vol.101

## ◆会津大学に合格しました

12月10日現在、本校3年生の就職内定率は96.6%に達しました。女子に限れば100%です。進学では、3年4組の松崎覚さん(移中出身)が見事、会津大学に合格しました。2年連続の国立大学合格です。今回は松崎さんの声を紹介します。

Q. 会津大学を目指したきっかけは?

A. 先生から勧められて、自分で大学を調べたことがきっかけです。県内にあり、将来の夢にかかわるコンピューターのプログラミングについて深く学べると思い志望しました。



松崎 覚 さん

Q. どのように勉強しましたか?

A. 数学で点数を取れるように勉強し、英語は文法に力を入れました。平日は約4時間、休日は約8時間勉強しました。

Q. 将来の夢は?

A. 将来はゲームプログラマーになりたいと考えています。会津大学ではコンピュータグラフィックについて学びたいです。

Q. 最後に一言。

A. どこで学びたいかよりも、何を学びたいかが大切です。ただ勉強するのではなく、自分の行きたい大学の入試をしっかりと調べ、対策を立てることが重要だと思います。

## ◆ジュニア・インターンシップに参加



11月17日～19日の3日間、1年生25人が郡山公共職業安定所主催のジュニア・インターンシップ(職業体験)に参加しました。田村市内では大型小売店や飲食店などにお世話になり、様々な指導や助言をいただきました。参加した生徒たちは働くことの厳しさ、人とかわるることの大切さを学び、大きな成長が見られました。お世話になった皆さま方に改めて御礼申し上げます。



## ◆修学旅行に行ってきました

10月20日～24日の5日間、2年生133人が広島・京都・大阪へ修学旅行に行ってきました。台風の影響が心配されましたが、初日から最終日まで天候に恵まれ、大きなけがや事故もなく、全工程を無事に終えることができました。

1日目は広島原爆ドームを見学。地元のボランティアガイドの方々の説明に耳を傾け、戦争や原爆の恐ろしさを改めて感じているようでした。千羽鶴の献納セレモニーでは、生徒代表の佐藤大虎さん(船引南中出身)が誓いの言葉を述べ、平和への思いを新たにしました。2日目の午前中は宮島見学、午後は京都でクラス別研修、3日目は京都で班別自主研修、4日目はユニバーサルスタジオジャパンで過ごし、5日目は大阪城見学と、過密なスケジュールだったため、生徒たちは疲れた様子でした。しかし、生徒たちにとっては大変楽しく、忘れがたい旅行になったようです。いきいきとした表情で学校に戻ってきた生徒たちが印象的でした。

### ●修学旅行を終えて

渡辺希和さん(都路中出身)「修学旅行では歴史ある建造物を多く訪ねた。「温故知新」という言葉があるように、古き良きものに触れ、新しいことを知ることができ、自分の見聞が広まった。」



カウント・ダウン

Stefanie Stoops

ステファニー・ストゥープスさん  
(アメリカ合衆国  
オハイオ州出身)

海	を	越	え	て
英	語			
	指	導	助	手
ペ	ン	リ	レ	ー
			No.	31

イースター(キリストの復活祭)、7月4日(アメリカ独立記念日)、収穫感謝祭、ハロウィーン、クリスマス—これらはアメリカの大切な祝祭日ですが、ここに12月31日や1月1日は入っていません。でも、アメリカ人は新しい年が始まる時、旧年がただ静かに過ぎていくのは好みません。新年は1月1日ですが、お祝いは12月31日のニュー・イヤーズ・イブ(前夜)、高い建物の尖塔から12時の鐘が鳴る最後の数秒から行われます。カウント・ダウンです。

年明けには様々な慣習があります。パーティーを催したり、パーティーに参加したりすることが一般的です。アメリカ人は家族が集まる機会や祝日にビールやワインを飲む習慣がありますが、新年の年明けが最も広くアルコールが飲まれます。(アルコールを飲まない人は発砲グレープ・ジュースで祝います。)

この日には、特に伝統的な音楽はありません。最も知られている曲は「オールド・ラング・ザイン」(「蛍の光」の原曲)で、過去を思い出す歌です。その詞はもともと新年に関係はありませんでしたが、一年の終わりを祝うのに合った歌詞だったのでしょう。

教会の中には、一年の終わりと新しい年の初めの特別な瞬間を記念するための礼拝式を行なうところもあります。

私の家族は違うやり方でお祝いをしました。ある年は少数の友人を招待し、一緒にカウント・ダウンをしながら最後にみんなで「ハッピー・ニュー・イヤー」と乾杯しました。真夜中過ぎまで深夜映画を見に行った年もありました。昨年は、若い人たちが主催するお祝いにいとこや友人と一緒に教会へ行きました。お祝いは食べ物とゲームから始まり、個人的な心の悩み、成功したこと、神様の祝福などを話し合う時間が続きました。それから新年を迎えるために礼拝式(礼拝は神様を拝むこと)が行われました。



最も大きなお祝いの一つは、ニューヨーク市で行われます。毎年、タイムズ・スクエアに約100万人の群衆が集まります。午前0時少し前に、いろいろな色の電飾灯で輝く巨大なクリスタルボール(カットガラス電球)が超高層ビルのすぐ近くの柱に降りてきます。クリスタルボールは午前0時の鐘で静止します。観衆の上に紙吹雪が降り、カップルは口づけをします。

これももう慣習と言えるでしょう。たくさんのアメリカ人がテレビの生中継でそのイベントを見ます。

1月1日のお祝いの最後に、多くの人々が新年に誓いを立てます。その誓いは、新しい年もっとよい自分になることを自分自身に約束するようなものです。一般的には具体的な物事や目標などで、体重を減らす、一日に水をもっと飲む、一年を通して一週間に1冊は本を読む、毎日3つ前向きな事を言う—など。神様をもっとよく知るために一年で聖書を初めから終りまで読み通すことや、毎日お祈りすることを目標にする人もいます。それらの目標を達成した人達は次のニュー・イヤーズ・イブにはその成功を祝うことができるでしょう。

どうですか、あなたも「アメリカの新年」をお祝いしてみませんか?